

富山県における外国原産の両生類・爬虫類・魚類について

* 稲村 修

はじめに

明治以降、外国との交流が盛んになるにつれて、多くの外国原産の生物が日本に入ってきた。それは産業上の目的や個人的な目的のための導入であったり、他の生物や輸入品への紛れ込みなどによるものである。それらの中には既に絶滅したものもいるが、現在でも養殖や観賞用として飼育されているもの、そして日本の風土に適應し自然繁殖をしているもの（帰化生物）がいる。

富山県においても外国原産の生物が多く移入されている。1990年度の特別展「外国からきた生きものたち」展を行うのを機会に、外国原産の両生類・爬虫類・魚類の富山県への移入経路や現状等を明らかにするために、資料の収集、聞き取りおよび採集調査を行った。調査期間は1990年4月から12月で、調査の対象は原則として野外で記録されたものとし、観賞用などに飼育しているものは除いた。情報が不十分のものについては「その他」の項に記した。

情報元の表記について、文献による場合は著者名と発行年を記し、聞き取りによる場合は情報の末尾に情報者名を記した。

お世話になった方々

今回の調査の実施、取りまとめにあたり、実に多くの方々および機関等のご協力を得ました。ここに御芳名を記して、厚くお礼を申し上げます。

飯村 晃（黒部市）、岡 圭一（富山県自然博

物園ねいの里）、加藤輝威（氷見市）、小杉保行（富山市公園緑地課）、小林英俊（富山県立中央病院事務局建設室）、佐藤久三（前・富山県総合教育センター）、佐波宣英（福野町・佐波川魚店）、柴田敏明（福岡町・柴田養魚場）、菅野宏文（伊豆アンディランド）、瀬川哲示（富山女子短大付属高等学校）、田中良二（富山県漁業協同組合連合会）、塚田修一（立山町）、土井捷三郎（富山県水産試験場）、中村一恵（神奈川県立博物館）、中村幸弘（上越市立水族博物館）、七尾和映（高岡市・三島熱帯魚店）、西岡 満（高岡古城公園動物園）、布村 昇（富山市科学文化センター）、丸山為藏（水産庁養殖研究所日光支所）、谷内則之（福岡町産業課）、山本邦彦（金沢水族館）、湯浅純孝（立山自然保護センター）、湯口能生夫（富山海区漁業調整委員会）、米田敏夫（福光町）、若林信一（富山県水産試験場）、若林 洋（富山県水産試験場）、渡辺 護（富山県衛生研究所）

滑川市役所、三菱レーヨン株式会社富山事業所、富山県動物生態研究会、富山県立水産高等学校、富山市ファミリーパーク

（五十音順、敬省略）

また、富山市科学文化センターの南部久男学芸員、富山県水産試験場の角 祐二主任研究員には、資料の収集にあたり便宜を計っていただきました。厚くお礼を申し上げます。

最後になりましたが、富山大学教育学部教授田中 晋博士には終始ご指導をいただき、さらに本文の校閲をしていただきました。深く感謝申し上げます。

総 論

近年の報告によると、富山県で記録されている外国原産種は、両生類ではウシガエル、爬虫類ではミシシッピーアカミミガメ（富山県両生・爬虫類研究会,1987）、魚類ではカワマス・ニジマス・*(1)チャンネルキャットフィッシュ・オオクチバス・タイリクバラタナゴ・ソウギョ・ハクレン・カムルチー・*(2)チカダイ（富山市科学文化センター,1989）である。今回の調査で新たに確認できたのは爬虫類では、カミツキガメ、魚類ではブラウントラウト・グッピー・ブルーギル・タウナギであった。今回の調査をもとに、富山県に最初に移入（発見）された年と場所および現状を表1に示した。

移入経路・目的

これらが移入された経路や目的は様々であるが、本来は食用にするための養殖・流通や、増殖のための放流が盛んに行われてきた。明治・大正・昭和初期にかけて、導入の中心となっていたのは、現在の富山県立水産高等学校と富山県水産試験場の前身である富山県水産講習所で、1922年（大正11年）にニジマス、1924年（大正13年）にウシガエル、1926年（昭和元年）にカワマスの導入を県下で初めて行った。その後、漁協、民間の養殖・流通業者等も加わり、放流や逸出などにより野外でも見られるようになった。また、水草の駆除を目的にしたソウギョの導入や、ボウフラ駆除・水質浄化を目的にしたグッピーの飼育試験が行われている。その他、紛れ込みとしては、高岡古城公園でのハクレンがソウギョ種苗に混じっていた例や、今回見られた福野町で仕入れている中国産ドジョウに混じって入ってきたタウナギの例がある。近年は観賞用や遊漁を目的とした移入も増えている。観賞用に飼育されていたものが、逃げ出したか捨てられたと考えられるのはミシシッピーアカミミガメとカミツキガメである。遊漁を目的として釣り人が自主放流しているのが、ブラック

バスと今回初めて確認されたブルーギルである。また、確認はできなかったがニジマスやブラウントラウトの稚魚・発眼卵が、釣り人により持ち込まれているという情報もあった。

富山県の現状

富山県の風土に適応している種は少なく、カワマスのように既に見られなくなった種もある。また、ソウギョやハクレンは大河でない繁殖できないし、ナイルティラピアやグッピーは冬期の低水温で死滅する。ミシシッピーアカミミガメやチャンネルキャットフィッシュは繁殖可能と思われるが、個体数が少ないためか繁殖は確認されていない。繁殖が確認されているのはウシガエル・ニジマス・オオクチバス・タイリクバラタナゴ・カムルチー・ブルーギルであるが、それらのなかでもカムルチーは激減しており、タイリクバラタナゴも生息地を減らしている。ニジマスは山上湖において繁殖が報告されているが、ほとんどは放流により補われている。一方、ウシガエルは富山市と県西部の平野部で多く見られ、安定して繁殖している。さらにブラックバスのように全県的に分布を広げている種もある。ブルーギルは小矢部市でのみ確認されたが良く繁殖しており、富山県の風土に適応していると言える。今回、県下で養殖されているのが確認できた種はニジマス・チャンネルキャットフィッシュ・ナイルティラピア・グッピーであった。

各 論

1) 両生類

ウシガエル （アカガエル科）

Rana (Rana) catesbiana SHAW

別名：食用ガエル

日本へは1917年（大正6年）4月、東京大学の渡瀬庄三郎博士が研究材料として、米国ルイジアナ州ニューオーリンズ市から24つがいを導入し、東京にある伝染病研究所内の池に放した雌4匹、雄10匹から1919年（大正8年）秋には

* (1)=チャンネルキャットフィッシュ

* (2)=ナイルティラピア



数百匹の幼蛙を得ている。その後、研究所から茨城県水産試験場と滋賀県水産試験場が繁殖用に分譲を受けた。そして、1929年（昭和4年）までに1道45府県と台湾まで配布され各地で繁殖している（丸山他、1987）。

富山県への導入は富山県水産講習所が1924年（大正13年）10月31日に、農商務省の委託により茨城県水産試験場から分譲を受けた尾部消失直後の仔蛙411尾のうちの406尾を、講習所講内（現在の滑川市高月地内）の飼育池に収容した（前田、1926）。飼育試験は仔蛙を育て採卵して県内の希望者に配布することを目的としていたが、越冬中の死亡等により1927年（昭和2年）4月には残り5匹となった（前田、1927）。この後の状況に関する資料は見られなかった。

野外のものに関して高岡古城公園では、移入経路は不明だが昭和10年代には既に生息していたという（泉、瀬川、1985）。当時はウシガエルの養殖が全国的に盛んで1940年（昭和15年）頃には、北海道南部から九州、沖縄、台湾、小笠原にまで帰化していた（神奈川県立博物館、1988）ということで、富山県下にも養殖のため持ち込まれた可能性もあるが記録は見られなかった。

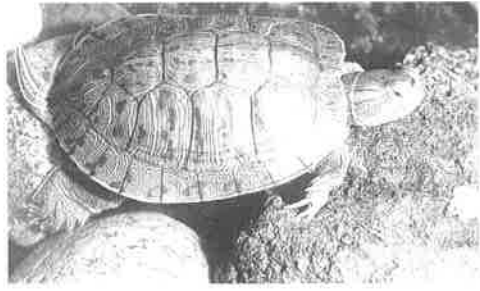
県下の分布については、海辺から山麓にかけての溜め池や沼沢地や市街地・住宅の付近にも広く分布している（富山県両生・爬虫類研究会、1987）といわれ、今回の調査では富山市ファミリーパーク内の池、小杉町薬勝寺池、新湊市足洗潟、氷見市十二町潟、小矢部市子撫川ダムで見られた。

2) 爬虫類

ミシシippieアカミミガメ (ヌマガメ科)

Trachemys scripta elegans (WIED)

別名: ミドリガメ (子亀)



ミシシippieアカミミガメは米国南部原産で、目の後方に赤い模様があるのでこの名が付いた。子亀は全身が鮮やかな緑色をしており、「ミドリガメ」の名前で夜店やペットショップなどで売られている（神奈川県立博物館、1988）。ミドリガメにはミシシippieアカミミガメの別亜種や雑種が含まれている可能性がある（菅野宏文）。愛玩用として輸入されだしたのは、1965年（昭和40年）頃からで（菅野宏文）、1970年代以降、東京不忍池に定着したといわれている（中村一恵）。近年、サルモネラ菌感染の恐れがあると報道されてから、ミドリガメのブームは下火になった。

北陸地方では1978年（昭和53年）6月29日、内灘漁協から金沢水族館にミシシippieアカミミガメが一尾、持ち込まれた記録がある。この個体は漁師が河北潟で捕らえて、しばらく飼っていたものである（山本邦彦）。

富山県では1981年（昭和56年）以降、高岡古城公園・富山市神通川・新湊市足洗潟の3ヶ所で記録されている（富山県両生・爬虫類研究会、1987）。今回の調査でも高岡古城公園で甲長15～30cmくらいの個体が3尾見られた。

カミツキガメ (カミツキガメ科)

Chelydra serpentina ssp.

原産地はカナダ南部から南アメリカ北部で、



甲長47cmくらいになる。4亜種おり、日本へは観賞用に輸入されている。攻撃的な性格で、その名が示すように首を延ばして噛みついてくる。

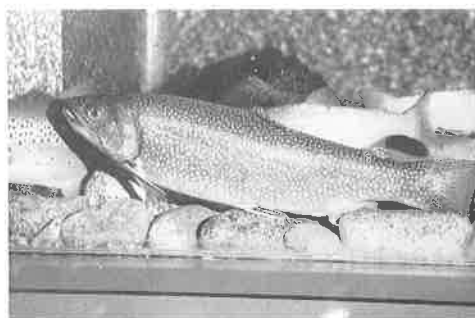
富山県では1987年（昭和62年）4月9日、福岡町下叢新地内にあるJRの線路わきの用水路で甲長18cm、体重1.65kgの個体が一尾捕獲されている。ペットとして飼われていたものが逃げ出したか、捨てられたものと思われる。この個体は甲にクワで切られたような深い傷があった。現在は当水族館で飼育されている。

3) 魚類

カワマス (サケ科)

Salvelinus fontinalis (MITCHELL)

別名:ブルックトラウト、スペックトラウト



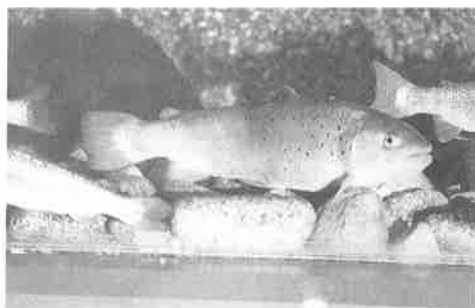
日本へ最初の導入は1901年（明治34年）で、米国コロラド州レッドビル、コロラド河産の発眼卵25,000粒が導入され、日光の湯川に放流された。富山県には1926年（大正15年）に、米国産の発眼卵300,000粒が導入された（丸山他, 1987）。

富山県におけるカワマスの放流事業は富山県水産講習所が行っており、黒部川では1926年度（昭和元年度）から放流されており、1929年度（昭和4年度）からは黒部川の他に神通川、庄川、小矢部川にも放流されている（中山他, 1930）。放流の記録は1931年（昭和6年）5月まで見られた（中山他, 1931）。現在、県内では見られない。県下一般に「カワマス」というとサクラマスをしやす場合が多く、注意が必要である。

カワマスはイワナ属であり、在来イワナとの交雑による不妊が問題となり、現在ではあまり利用されていないが、イワナとの雑種（F1）はイワカワと呼ばれ、飼育し易く病気にも強いので、養殖して食用に出荷されている。

ブラウントラウト (サケ科)

Salmo trutta LINNAEUS



日本への導入は、ニジマスやカワマスの卵に混じって入ってきたと考えられており、これらの卵が導入された1902～1926年（明治35年～大正15年）に初めて入ってきたと考えられる（丸山他, 1987）。現在では、遊魚の対象として導入される事がある。

富山県では、1931年（昭和6年）黒部川で20cmあまり、165gのものが捕獲された（木村, 1981）とあり、平崎（1959）も黒部川で採集された記録があるとしている（元の記録は発見できなかった）。これも、当時放流されていたカワマスかニジマスに混入したものと思われる。

最近では、1986年（昭和61年）7月24日、富山空港の少し上流の神通川で尾又長50.0cm、体重1.8kg（内臓抜き）の個体が1尾、サクラマスの網に混獲されている（若林 洋、標本は富山県水産試験場で冷蔵）。また未確認であるが、ここ数年釣り人が発眼卵を導入し、放流をしているという情報もあった。

ニジマス (サケ科)

Salmo mykiss WALBAUM

別名:レインボートラウト

日本への最初の導入は、1877年（明治10年）



に米国カリフォルニア州の河川産ニジマス卵10,000粒であり、最初の放流は猪苗代湖と中禅寺湖へ行われた。その後も、数多く導入されている(丸山他, 1987)。

富山県への導入については、富山県水産講習所が1922年(大正11年)4月5日、栃木県日光町より受精卵20,000粒を導入したのが最初の記録で、福光町吉見地内で孵化・育成した稚魚約5,000尾は、同年7月29日、小矢部川の上流へ放流された(前田, 1923)(笠村, 前田, 1924)。これは当時行われていたピワマス・ヤマメの養殖実験において、両種の種苗不足を補うために導入されたものである。その後も養殖業者や漁協等が、食用および漁業保証や遊漁を目的とした放流のため多く導入している。日本国内ではあまり自然繁殖しないが、富山県内では大山町の祐延湖で繁殖が確認されている(田中, 1980)。

ソウギョ (コイ科)

Ctenopharyngodon idellus (VALENCIENNES)



日本への最初の導入は1878年(明治11年)6

月に上海からである。その後も十数回にわたり導入されている。ソウギョは大河でなければ繁殖できず、日本では1948年(昭和23年)9月に利根川本流で自然繁殖が確認された。日本の天然水系で自然繁殖の見られるのは利根川水系のみである(丸山他, 1987)。

富山県への導入については、1967年(昭和42年)3月、高岡古城公園の堀に利根川水系から約1,000尾の種苗の導入が記録されており、現在では全長80~100cmくらいになっている。これは堀内の水草を取り除く目的があったそうであるが(泉, 1985)、その影響だけが否かは明らかでないが、現在では水草(水蓮)はほとんど見られない。その後、1969年(昭和44年)の5月頃、富山城祉公園の堀に全長5~6cmのものが500尾、埼玉県漁業協同組合から入っている(小杉保行、富山市公園緑地課 北堀 健氏のメモより)。現在、全長1m位の個体が数十尾見られる。

また、1970年(昭和45年)頃から10年間ほど、県内の養鯉業者が販売していたという(飯村晃)。

最近では滑川市が1975年(昭和50年)と1976年(昭和51年)に、市内を流れる田中川と沖田川に水草の駆除を目的に稚魚を放流したが、その後は確認されていない(滑川市役所)。

採捕の記録については、1981年(昭和56年)8月に白岩川で採取した個体を当水族館で引き取った。

その後、1983年(昭和58年)、1987年(昭和62年)に白岩川で釣り上げられている(北日本新聞1987年9月18日朝刊)。

現在でも、神通川や白岩川の下流部で見られるという(湯浅純孝)。

ソウギョは大正から昭和初期に大量に輸入されて国内に配布されており、以上の記録以前の導入の可能性もあるが記録は発見できなかった。

ハクレン (コイ科)

Hypophthalmichthys molitrix (VALENCIENNES)

日本への最初の導入は1878年(明治11年)、



上海から導入したソウギョ種苗に混じって入ってきたと言われる。その後もソウギョの導入時に混入したと考えられる。ハクレンの自然繁殖は利根川水系において、1947年（昭和22年）9月に確認された。近年では同水系で盛んに繁殖している（丸山他，1987）。

富山県では高岡古城公園の堀でのみ記録されており、1967年（昭和42年）3月、ソウギョの導入時に混じていたと考えられている（泉，1985）。今回も70cm位の個体が数尾の群れを作って、水面近くを泳いでいるのが見られた。

タイリクバラタナゴ（コイ科）

Rhodeus ocellatus ocellatus (KNER)



日本で最初の発見は1942年（昭和17年）で、中国揚子江産のソウギョ、レンギョ種苗の中から3尾が発見された事から、その前後に導入された種苗にも混入していたと推察されている。1945年（昭和20年）頃から利根川水系で見られるようになり、1950年（昭和25年）の夏頃から霞ヶ浦、北浦などで繁殖した（丸山他，1987）。

その後、1962～1963年（昭和37～38年）頃か

ら琵琶湖でも見られるようになった。これは霞ヶ浦から移植されたイケチョウガイに卵か仔魚が付いていたためと思われる。そして、現在まで琵琶湖からのアユの放流や釣り用のフナの移植、あるいは熱帯魚店を通して日本中に広まった（長田，1989）。

富山県への導入に関する詳しい資料は見られなかった。泉（1985）は、タイリクバラタナゴが富山県で見られるようになったのは昭和40年代ごろからで、高岡古城公園の場合はソウギョ種苗に混入した可能性もあるとしている。

現在まで分布が報告されているのは富山市では神通川と鍛冶川、新湊市の足洗潟と下条川、高岡市の古城公園と小矢部川である（富山市科学文化センター，1989）。また、氷見市の十二町潟でも見られた。以上の分布をみると神通川や小矢部川などでは毎年、琵琶湖産のアユの放流が行われているのでアユへの混入も考えられる。また、高岡古城公園の堀や足洗潟では捨てられた観賞用の個体が増えた可能性も考えられる。タイリクバラタナゴは繁殖にドブガイなどの淡水貝が必要で、近年の環境悪化による淡水貝の減少により、その生息域を狭めている。

チャンネルキャットフィッシュ（ヘラナマズ科）

Ictalurus punctatus (RAFINESQUE)

別名：チャンネルキャットフィッシュ、アメリカナマズ、ソコナマズ



日本へは1971年（昭和46年）6月に、日清製粉(株)中央研究所が米国産の稚魚2,000尾を導入し、その後1974年（昭和49年）に採卵孵化に成功している。その他1971年（昭和46年）には

埼玉県水産試験場と淡水区水産研究所が稚魚や発眼卵の導入を行っている（丸山他,1987）。また、観賞用としても、1980年代の初期からペットショップ等で販売されている（七尾和映）。

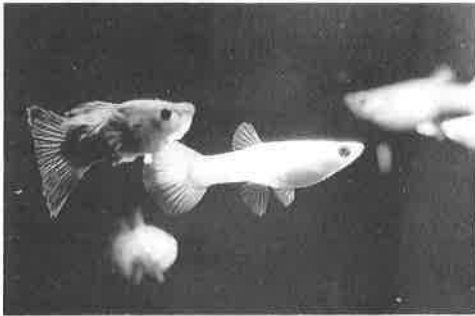
富山県では1981年（昭和56年）に立山町の塚田修一氏が、栃木県の製パン会社から養殖用に導入し、現在では採卵も行っている（塚田修一）。

富山県内における採捕の記録は、1984年（昭和59年）1月15日に富山市内の神通川で釣り上げられた全長51cmの個体（南部，田中，1987）と、1988年（昭和63年）3月28日に上市町の白岩川（交益橋の下）で投網により捕獲された全長約50cmの個体（岡 圭一）の2例ある。移入経路は明らかでないが、後者では養殖場の近くの用水が白岩川に流れ込んでおり、養殖場から逃げ出した可能性も考えられる。

グッピー（カダヤシ科）

Poecilia reticulata PETERS

別名：セイヨウメダカ



南米原産で、ハワイやタイなどの亜熱帯と熱帯域を中心に各地へ移植され野性化している。

日本へは観賞用として移入された魚で1955年（昭和30年）頃から温泉地で野性化しているのが見られるようになり、現在、福岡県・長野県・静岡県・岡山県・大分県・鹿児島県等にある温泉地や琉球列島で自然繁殖が確認されている（幸地，1989）。低温に弱く、14℃を切るとほとんどが死んでしまう（佐原,幸地,1980）。

富山県では富山県衛生研究所がボウフラ駆除・水質浄化を目的として、1974年（昭和49年）7月から9月にかけて、富山新港貯木場と富岩運河

貯木場においてイケスを使ったグッピーの飼育実験を行っている。また、石川県七尾市の溜め池にカダヤシの放流も行った（富山県衛生研究所,1975）。

最近では1988年（昭和63年）に福岡町の柴田敏明氏が、養魚場の水槽の掃除を目的に導入した。養魚場は温泉（源泉32℃）を使用しており、排水路では多くのグッピーが見られた。この排水路は小矢部川本流に流れ込んでおり、本流では冬季に死滅すると考えられる。

カムルチー（タイワンドジョウ科）

Channa argus (CANTOR)

別名：ライギョ



日本へは1923～1924年（大正12～13年）頃、奈良県郡山町の人が朝鮮から持ち帰り、付近の溜め池に放養し、これが繁殖したものとされている（丸山，1987）。また、石川県でも七尾市（和倉）の人が、1933年（昭和8年）に愛玩用にと阪神地方から運んだのが殖えて野性化したとも言われている（木村，1981）。

富山県では、戦前から見られたと言われているが、移入経路や年代は不明である。平崎（1959）によれば、早月川から西の沼地にかなり繁殖しており、昭和の初め、関東・関西地方で養殖を始めたのが地方に広がり富山県にも侵入してきたという。著者は1985年（昭和60年）前後に小杉町の薬勝寺池で見ており、1967年（昭和42年）には新湊市の足洗瀉で大量に死亡しているのを見た（田中 晋）とのことであったが、今回の調査では両地とも見られなかった。また高岡古城公園の堀では、1965年（昭和40年）から1983年（昭和58年）7月まで19回の「ライギョ

釣り大会」をするほど多く見られたが、近年では激減しており、今回は数尾が確認されたのみであった。他の場所では富山市新堀川、氷見市十二町潟（加藤輝威）、氷見市の溜め池（湯浅純孝）に生息しているとのことであった。

オオクチバス (バス科)

Micropterus salmoides (LACEPEDE)

別名：ブラックバス



日本への最初の導入は1925年（大正14年）5月、米国から取り寄せ箱根の芦ノ湖に放流したもので、その数は全長約45cmの成魚3尾、6～9cmの稚魚75尾とされている（丸山他,1987）。その後、主に釣り人の放流によって全国に広がった。

富山県で最初の確認は、1980年（昭和55年）に小矢部川水系でされており、子撫川ダムや桜ヶ池とその周辺、小矢部川の本流、支流で捕獲されている（宮崎、谷内,1982）。移入の経緯については、1977年（昭和52年）頃、関西方面からきた釣り人が何回も放流したと聞いているとのことであった（米田敏夫）。現在でも、子撫川ダムに生息するが、桜ヶ池は水が抜かれており生存しないとされる。また1989年（平成元年）9月14日に神通川の富山大橋下で、投網により1個体が捕獲されている（南部久男、標本は富山市科学文化センターに保管）。今回の調査では小杉町の薬勝寺池、富山市新堀川、魚津市の角川でも生息が確認され、県下全域に分布が広まってきている。今後、釣り人による放流、琵琶湖産のアユ種苗への混入等により、他の水系にも広まるものと思われる。

ブルーギル (バス科)

Lepomis macrochirus RAFINESQUE



日本へは1960年（昭和35年）10月、米国アイオワ州のミシシッピー川で捕られた17尾が導入され（寺島,1980）、実験的に飼育された後、伊豆の一碧湖に放流された（神奈川県立博物館,1988）。また、一時的には本種の養殖もされていた（丸山,1987）。

いままで富山県での記録はなかったが、1990年7月6日、子撫川ダムで全長75～147mmのブルーギル28尾を釣りで採集した。採集した個体の他に、より大型の個体も小型の幼魚も見られ、数年前に放流され繁殖していると考えられる。移入について釣り人の間では、1985年（昭和60年）前後に釣り人がオオクチバスの餌にする目的で放流したと言われている（加藤輝威）とのことであった。また2、3年前に富山市の神通川右岸の河川敷きの溜め池で見た（小林英俊）ということであったが、確認はできなかった。

ブルーギルは雑食性で、その上、富山県のような気候でも良く繁殖する。今後、人為的な放流やアユ等の種苗への混入により、他の水系に広がる可能性もある。

ナイルティラピア (カウスズメ科)

Oreochromis niloticus (LINNAEUS)

別名：チカダイ、イズミダイ

日本への最初の導入は1962年（昭和37年）12月で、エジプトのアレキサンドリア水族館産の稚魚141尾が淡水区水産研究所に送られてきた。このうちの生存魚120尾は東宮御所、埼玉県水



産試験場、鹿児島大学、淡水区水産研究所の4機関で配分飼育された(丸山他, 1987)。

富山県への導入は1978年(昭和53年)、福岡町の鯉センターが石川県の手取フィッシュランドより約2,500尾を導入した。このうちの500kgを同町の養殖業、柴田敏明氏に譲り、現在では年に約10tを生産している(谷内則之)。

その後1979年(昭和54年)の秋、三菱レーヨン株式会社富山事業所が、埼玉県の配合飼料の会社より20尾を譲り受け、同社が養殖しているスッポンの残餌処理に利用している。現在、約4,000尾を飼育している(三菱レーヨン株式会社富山事業所)。

1987年(昭和62年)7月に富山市の岩瀬運河で、体長30cm前後の個体が大量に釣れだした。これは上流にある三菱レーヨン株式会社富山事業所から逃げたものと思われる(南部, 1987)。また同年11月に、神通川河口で1個体(湯浅純孝)、さらに白岩川で2個体捕獲されている(北日本新聞1987年11月21日朝刊)。ナイルティラピアは耐塩性が強く、海に入って移動した可能性もある。

ナイルティラピアの低水温への耐性は14℃で4ヶ月、12℃で2ヶ月間生存するが、7～8℃では数日間しか生存できない(丸山他, 1987)と言われており、逃げ出した個体は越冬できなかったと考えられ、その後の報告はない。しかし福岡町の柴田養殖場では、逃げ出した個体が排水路でも見られた。温泉を利用しているので排水路での越冬は可能と思われる。

タウナギ (タウナギ科)
Monopterus albus (ZUIEW)



原産地はタイ、ボルネオ、インドネシア、台湾、中国南部、朝鮮南部で、日本では沖縄県および近畿地方の一部の県と東京不忍池に生息している。日本に自然分布していたか否かは明らかでない(丸山他, 1987)。日本に持ち込まれた記録は1910年(明治43年)頃、奈良県に持ち込まれたのが確かめられている(今谷, 1980)。

富山県での記録はなく、今回見られたのは福野町の川魚店(佐波川魚店)で、蒲焼き用に仕入れた中国産のドジョウに混じってきた個体である。全長約20～40cmの個体4尾が敷地内の蓄養池で見られた。

その他

・中国産ドジョウ

福野町の佐波川魚店では1985年(昭和60年)から中国産ドジョウを仕入れており、それ以前は韓国産を仕入れていた。今回見た中国産ドジョウには数種混じっていると思われたが確認は出来なかった。また、国産として仕入れている青森県産のドジョウにも、ここ数年中国産ドジョウが混じってくるとのことであった(佐波宣英)。

・チョウセンブナ

福野町の佐波川魚店で中国産のドジョウに1個体混じっていた。

・コロソマの一種

1989年(昭和64年)9月22日の北日本新聞朝刊に富山市の新堀川で釣り上げられた全長15.5cmのピラニアが富山市科学文化センターで確認されたように報じられているが、同センター

で確認されたという記録はない。標本も残っておらず、新聞の写真と歯が鋭くないという特徴から、南米原産の熱帯魚コロソマの一種と推測される。

・カダヤシ

佐原・幸地(1980)によると1970年(昭和45年)から1976年(昭和51年)の間に徳島市産のものが移入されたことになっている。しかし、富山県での放流の記録は見当たらなかった。(グッピーの項参照)

おわりに

今回の調査では、分布など「富山県の現状」に対する調査が不十分であった。そんな中でも、かつて「魚のギャング」として騒がれたライギョの減少、「第二のギャング」として騒がれているブラックバスの県下全域への広がり、他の水生生物への影響が大きいといわれるブルーギルの発見が印象的であった。

現状では増養殖業者に対しても、釣り人やベイト愛好家等の放流に関しても規制や指導は難しい。今後、分布の変化や新種の登場が考えられ、在来生物に対しての影響が懸念される。

文献 (a・b・c順)

- 平崎菊太郎, 1959. 富山県の動物・淡水および富山湾の魚類. 教育広報10巻8号: 18.
- 市島宇八, 1944. 富山県水産生物調査第三報. 富山県水産講習所報告: 119-156.
- 今谷信夫, 1980. タウナギ. 日本の淡水生物・侵略と攪乱の生態学: 87-92. 東海大学出版会.
- 泉 治男, 1985. 濠の自然-魚類-. 高岡古城公園の自然(高岡生物研究会, 高岡地学研究会編著): 152-163. 桂書房.
- 泉 治男, 瀬川哲示, 1985. 公園のへび、かめ、かえる. 高岡古城公園の自然(高岡生物研究会, 高岡地学研究会編著): 132-138. 桂書房.
- 神奈川県立博物館, 1988. 日本の婦化動物-外国からやってきた生きものたち-. 神奈川県文化財協会.
- 笠村 確, 前田九平, 1924. 鯉鯉養殖試験. 富山県水産講習所試験調査報告: 142-150.
- 木村 重, 1981. ニジマス. 魚物語: 64-71. 刊々堂出版.
- 木村 重, 1981. ライギョ. 魚物語: 95-103. 刊々堂出版.
- 幸地良仁, 1989. グッピー. 解説. 日本の淡水魚: 431. 山と溪谷社.
- 前田九平, 1923. 淡水族養殖. 大正11年度業務功程: 78-85. 富山県水産講習所.
- 前田九平, 1926. 食用蛙飼育試験. 大正13年度富山県水産講習所事業報告: 65-71.
- 前田九平, 1927. 食用蛙飼育試験. 大正14年度富山県水産講習所事業報告: 122-128.
- 前田九平, 1927. 食用蛙飼育試験. 大正15年度・昭和元年度富山県水産講習所事業報告: 109.
- 丸山為蔵, 藤井一則, 木島利通, 前田弘也, 1987. 外国産新魚種の導入経過. 水産庁研究部資源課・水産庁養殖研究所.
- 宮崎統伍, 谷内則之, 1982. 小矢部川水系に生息するブラックバスについて. 富水試だより, 28: 7-8.
- 長田芳和, 1989. タイリクバラタナゴ. 解説. 日本の淡水魚: 360-361. 山と溪谷社.
- 中山 勝, 藤田四郎, 会田安曇, 1930. 鮭鱒人工孵化増殖事業. 昭和4年度富山県水産講習所事業報告: 119-138.
- 中山 勝, 市島宇八, 藤田四郎, 清水定雄, 会田安曇, 1931. 鮭鱒人工孵化増殖事業. 昭和5年度富山県水産講習所事業報告: 128-161.
- 南部久男, 田中 晋, 1987. 富山県神通川で採集された北アメリカ原産の淡水魚 *Ictalurus punctatus* について. 富山市科学文化センター研究報告, 11: 137.
- 南部久男, 1987. アフリカの淡水魚, テラピア類. 富山市科学文化センター今月の話題, 115.
- 佐原雄二, 幸地良仁, 1980. カダヤシ. 日本の淡水生物・侵略と攪乱の生態学: 106-117. 東海大学出版会.
- 田中 晋, 1980. 人造湖におけるニジマスの自

然繁殖. 淡水魚, 6 : 71-73.

寺島 彰, 1980. ブルーギル. 日本の淡水魚・侵略と攪乱の生態学 : 63-70. 東海大学出版会.

殿山美喜夫, 1982. 富山の淡水魚. 富山生物教育, 16 : 48-56.

富山県衛生研究所, 1975. 昭和49年度富山県衛

生研究所年報.

富山県両生類・爬虫類研究会編, 1987. 富山県の両生類・爬虫類. 富山県.

富山市科学文化センター, 1989. 田中晋淡水魚コレクション届富山市科学文化センター収録録第3号.

表 1 富山県で記録された外国原産両性類・爬虫類・魚類一覧

分類	種名(和名)	原産地	富山で最初の移入(発見)年	富山で最初の移入(発見)地	富山県の現状
両生類	ウシガエル	北米	1924	滑川市	繁殖
爬虫類	ミシシッピーアカミミガメ	北米	(1981)	(高岡古城公園の堀)	*現状維持
	カミツキガメ	カナダ南部~南米北部	(1987)	(福岡町)	保護例のみ
魚類	カワマス	カナダ東部・北米	1926	宇奈月・黒部川	消滅
	ブラウントラウト	ヨーロッパ	(1931)	(黒部川)	消滅
	ニジマス	北米	1922	福光町・小矢部川	繁殖・養殖・放流
	ソウギョ	中国	1967	高岡古城公園の堀	*現状維持
	ハクレン	中国	1967	高岡古城公園の堀	*現状維持
	タイリクバラタナゴ	アジア大陸東部	?		繁殖
	チャンネルキャットフィッシュ	北米	1981 (1984)	立山町(神通川)	養殖
	グッピー	南米	1974 (1990)	富山市(福岡町)	養殖
	カムルチー(ライギョ)	朝鮮半島	?		繁殖
	オオクチバス	北米	(1980)	(小矢部川水系)	繁殖
	ブルーギル	北米	(1990)	(子撫川ダム)	繁殖
	ナイルティラピア	アフリカ東、南部	1978 (1987)	福岡町(岩瀬運河)	養殖
	タウナギ	アジア大陸東南部	(1990)	(福野町)	紛れ込み例のみ

*繁殖や放流等による増加が認められず、既に移入された個体が生息している状況